

Urban Station Kagoshima 開催！—社会実験報告—

The pilot program “USK” has been done!

—Reports from Kagoshima—

11月1～6日にかけて鹿児島PJが現地で社会実験「USK:アーバン・ステーション・カゴシマ」を行ってきました！まだ暑さが残る南国での社会実験の様子を、鹿児島への熱い想いを抱くPJメンバーに報告して頂きます！なんちゅてん（何と言っても）USK！！

text_ishii

4つのUSKが作る「まちのストーリー」

各USKの説明：M2 吉田 健一郎

社会実験コンセプト

B4 塚本 恭将
鹿児島PJで行った社会実験「アーバンステーションカゴシマ」は、まちの歴史や魅力を紹介する施設を配置することによって人々の回遊性に変化が見られるかを検証するもので、市や地元大学などの協力のもと、11月1日（火）から6日（日）にかけて行われました。空き店舗や既存のギャラリーを利用して計6カ所の「USK」をオープンし、普段気づきにくいようなまちの魅力や通りの面白さをパネルや模型などによって展示しました。また地元の協力を得てトークセッションなどのイベントも同時に行い、大きな反響を呼びました。



▲ USK@ 名山洞レトロフットの素敵な空間

かつて堀や市場があった名山洞の独特の雰囲気を味わえる空間を、おしゃれなギャラリー「レトロフト」と小さくも味のある「三街区ギャラリー」で作り出しました。



▲ USK@ 広馬場の外観

かつてメインストリートであった広馬場通りのエピソード、模型や航空写真で都市のスケールや歩く楽しさを紹介。同時に通りの雰囲気をより顕在化させるため、登録文化財である鹿児島銀行別館の頭取室を特別に公開して頂きました。



▲ ガリバーの気分で地図上を歩く子供達

マルヤガーデンズという集客性が高く、既に文化的取り組みが盛んに行われている施設に情報発信拠点としての意味合いを持たせ、大人から子供まで楽しめる空間に設けました。

社会実験を終えて..

USKの企画・運営を通して、現地の方々の鹿児島に対する情熱に触れることができましたが、同時に、一つのまちに対して外から来た我々にできることは何だろうか、と考えさせられることも多々ありました。もちろんその答えを限定することはできませんが、一つに、「まちを考えるきっかけを与えること」があるのではないかと思います。USKには

回遊性の向上という一義の目的がありましたが、それ以上に地域の人々と強いつながりを持たせたことが大きな収穫であったのではないのでしょうか。今回の社会実験は、本当にたくさんの方々のご協力があってこそ実現できたことは間違いありません。改めて感謝の意を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



▲ 「ガラスマップ」によく訪れる場所の印を付ける来訪者

M2 山重 徹

今回は特別に鹿児島PJのテーマカラーである“べんがら”でお届けいたします。

＊べんがら（弁柄）…インドのベンガル地方で産出される赤褐色顔料が日本へ伝えられ、日本語なまりで「べんがら」という色名になり、近畿・中部以西で広く使用されている色です。鹿児島でも昔からよく使われていたという事で、今回の社会実験のテーマカラーとして採用しました。

引っ越しのご挨拶

阿部大輔先生の町家暮らし大公開！

An Essay by Mr. Daisuke ABE(ex-assistant prof.)



昨年度まで我が研究室に在籍していた、阿部大輔先生の京都の町家での暮らしぶりをお届けします！！

龍谷大学 准教授
阿部 大輔

Letter from Kyoto...

8月末に四条堀川近くの京町家に引っ越しました。一番のお気に入りには通り庭。ここは子供たちの遊び場でもあり、風の通り道でもあります。通りにはまだ京都らしいコミュニティのつながりが健在です。週末の昼下がり、玄関を開け放しておく、近所の子供たちが娘を目当てに遊びにきたり、近所のおばちゃんが和菓子を差し入れてくれてそこでまた世間話をしたりと、通り庭が街路から連続するある種のコモン空間であることを実感します。空間の公私の区分がゆらいできて、なんとも不思議な感慨に陥ります。

最近では運動をかねて、通勤時には自宅から祇園四条の駅まで歩くようにしてい



▲京町家の素敵な通り庭

ます。朝の京都の心地よさは何物にも代え難い。行きつけの喫茶店で買ったテイクアウトのコーヒーを片手に、まちが動き出す直前の街路をのんびり歩く。まだ人もまばらな錦市場、寺町商店街を抜け、

木屋町、先斗町を通り、四条大橋から鴨川を眺めながら駅へと到達する朝のルートは、格別です。「そうだ、京都、行こう。」訪問をお待ちしています。



▲ご近所さんの繋がりが残るまち

「エクステリアウッドの旅

- 都市デザインの微粒子・まちづくりのツール -

10月28日(金) 初代マガジン編集長酒井憲一氏による特別講義が開催されました！

text_maekawa

都市デザイン研マガジン初代編集長であり、アメニティ評論家としても活躍されている酒井憲一氏がその足で全国を巡り、発見した「エクステリアウッド (Vol.154)」を都市デザインの観点から論じた特別講義が開催されました。

当日、背広と薄くストライプの入ったセンスの光る黒いシャツで登場された酒井憲一初代編集長。「旅」というタイトルの通り、各地の写真や時には古い絵巻物を交えながらのスライドで、エクステリアウッドと呼ぶべきものがこんなにもまちに広がっていることを話してくださいました。高山、鞆、足助、浅草、佐原など我々にとって身近なまちも多く登場し、PJで何度も訪れるうちに見慣れてしまった木塀やベンチを改めて眺めてみることで、まちがよいものとなっていくタネがまだまだそこに見つかる気がしました。



▲先生方も酒井さんの講義に興味津々のご様子

プロジェクト報告

LUMBINI-project



ルンビニ プロジェクト

現地初訪問メンバーによるPJ調査報告です！

空間計画研究室 M1 石黒 達也

9月30日(金)から10月14日(金)までルンビニへ現地調査に行ってきた。距離の問題もあり、他のプロジェクトに比べ現地調査が出来る回数が少ない為、日本での入念な下準備と現地での濃密な調査が必要とされます。一年の間に急激な発展を遂げているルンビニの変貌を目の辺りにする一方で、世界遺産として後世へ残していく為に現地の様々な人々へ私たちは、何を提案し示していけるのかを考え調査・ヒアリングを行ないました。ただ、10月のルンビニは暑い。この暑さが調査の行く手を阻みました。朝7時には調査を開始し、昼には一旦宿舎へ戻り調査をまとめ、夕方、気温が下がってきたらまた現地へ出掛け調査再開という日々が続きました。初めは暑さと食事に参りましたが、最後の頃にはその生活にもなれ有意義な時間を過ごすことが出来ました。



▲現地の街の様子



▲世界の丹下先生



編集後記

石井 かおる

世界三大W杯でありながら、日本では盛り上がり欠けたラグビー NZ 大会。開催国の All Blacks が悲願の優勝!! 会場の一つであったクライストチャーチは、2月の大地震被害により試合会場から外されてしまいました。NZ 対日本戦では被災した両国を応援する人々に溢れ、その光景を見ていて胸が熱くなりました。今回のW杯は、私だけでなく多くの人の心を動かしたと思います。NZ と日本、震災からの復興を目指す者同士として Kia Kaha (強くあれ) !!

11月の予定

- 11月11日～13日 足助PJ現地訪問
- 11月18日～20日 日本都市計画学会創立60周年記念事業
- 11月23日 清水PJ社会実験

Information